

# プロフェッショナル 若手外科医の挑戦



国立大学法人 旭川医科大学 Asahikawa Medical University Hospital

外科学講座

吉田松陰の言葉

夢なき者に理想なし、  
理想なき者に計画なし、  
計画なき者に実行なし、  
実行なき者に成功なし。  
故に、夢なき者に成功なし。



なんで外科を選んだかって？

ママ～  
頑張ってる！

外科医の育て方

# 外科 燃中



夢のある外科医人生を  
君たちと共に！



西越崇博先生

3年目後期研修医(旭川医大33期卒)

医師3年目の西越です。二輪草のポスターセッションに寄稿せよとの命を受けましたので、第二外科での私の有り様など書き綴って見たいと思います。忙しいかと言われると、常に何かあるので忙しいですが、自分の時間も持てます。都合の悪い日などあれば当直を外してもらえたり融通がききます。朝は比較的早く、夜は比較的遅いですが辛いと感じることはないです。当直は割りと多いです。収入は初期研修の時と比較してかなり減りました。しかし、医師としての仕事を深める過程において、重要な点は、多くの先輩医師から指導を受けて、考え方や手法を学ぶことではないかと思えます。その意味で、大学で医局に所属するとは大きなメリットがあると思えます。

大原みずほ先生

8年目後期研修医(旭川医大28期卒)

私は2008年に旭川医大を卒業し、現在卒後8年目です。大学卒業と同時に結婚し、旭川医大で初期研修、その後旭川→札幌→遠軽と転勤しながら研修を積み、昨年7月に長男を出産、産休・育休を経て4月から復職しました。夫は大学の同級生で耳鼻科医です。妊娠中は、長時間立っていると具合が悪くなるので椅子に座りながら手術をしたり、X線透視が必要な処置は交代してもらったりしていました。初めての出産だったのでそれなりに不安はありましたが、周囲のサポートもあり予定通り34週で産休に入るまで働くことができました。当科で産休・育休を取得したのは私が初めてのことで、自分だけでなく医局としても手探りの状態だったと思います。子どもが1歳になるまで育休を取ることも考えましたが、スムーズな職場復帰を考えて、きりの良い4月からの復職を選択しました。生後8ヶ月からの保育園は子どもよりも私のほうが寂しいぐらいで、本人は予想に反して泣きもせず、熱も出さずに元気に通っています。朝は夫のほうが時間にゆとりがあるので、子どもを保育園に連れて行ってもらう私は先に出勤。いろいろな働き方があると思いますが、外科は朝のカンファレンスから参加したほうが一日の流れがスムーズなので朝はみんなと一緒にスタートするようにしました。その代わり、夕方は5時で仕事を切り上げて保育園へお迎えに。帰宅してから子どもが寝るまでは慌ただしく、気づけば一緒に眠ってしまうような毎日です。同年代の外科医と比較して自分ができないことや、同僚の負担増加など、心配や不安はつきませんが、忙しい時も5時になると帰る時間だよと言ってくれる心の広い先輩方や、イクメンの夫に支えられ働いています。今自分にできることは何か？ひとつは、今後同じように出産育児を経験する後輩のロールモデルになることだと思います。そのためにも、(身も心も)病まず、やめず、無理せず、かと言って甘えることなく、バランスを取っていくのが大切なのかもしれません。

高橋奈七先生

3年目後期研修医(旭川医大33期卒)

外科は専門医取得に必要な症例の分野が幅広いですが、当講座は本年度から大講座制となり、各科が連携して講座全体で専門医取得を支えてもらえます。入局待ってます！

筒井真博先生

3年目後期研修医(旭川医大33期卒)

はじめまして。3年目後期研修医の筒井です。旭川医科大学を卒業し、初期研修は名寄市立総合病院で行い、今年4月から旭川医科大学外科学講座で後期研修を行っています。現在は血管外科グループに所属し、日々勉強させて頂いています。僕は入局してですし、医局の説明をするには役不足なので、ここには大学に戻って3ヶ月経った今の僕なりの感想を書かせて頂きます。3ヶ月後期研修を行ってきましたが、「とても楽しい」というのが僕の偽らざる感想です。上級医の先生方は可能な範囲内で、あらゆる手技・術後管理・病棟管理等を任せてくれます。もちろん任せっきりでなく、間違った方向に進みそうな時はきちんと軌道修正を行ってくれます。指導をしっかり受けつつ、自分の手を動かして治療し、自分の判断で管理を行うことができるので、やりがいという意味で非常に楽しい日々を送らせてもらっています。また、外科は辛いとのイメージを持っている方も多いと思いますが、僕は外科だから特別に辛いと感じた事はありません。確かに臨時手術などが続けば眠かったりもしますが、毎日同じ日々を過ごすよりは多少波のある毎日を過ごす方が楽しいかなと思っています。まだ入局して日が浅いですが、外科に入局したことを後悔する事はないかと思えます。外科に興味のある方はぜひ外科を目指してください。そして一緒に頑張りましょう！

栗山直也先生

2年目初期研修医(旭川医大32期卒)

私は卒後2年目の研修医、栗山直也と申します。外科学講座への入局を決めており、現在は血管外科で研修を行っております。外科というと、「キツイ」という印象を持たれると思いますが、実はそれはそのとおりだと思います。私も学生時代は、外科は楽しいけれども体力のない自分にやっていけるのかと疑問に思っていた時期もありました。しかし、やってみると確かに体力的にはキツイけれども、精神的には非常に充実した日々を送れていると思います。先輩の先生方も積極的に手技をやらせて頂いて、自分の医者生活は充実したものとなっております。研修医のうちから執刀医の経験ができるのも魅力の一つだと思います。自分の体力に自信がない人でも、手技が好きな人は物怖じせず、積極的に外科を選ぶことは考えてもいいかもしれません。また、今年から旧第一外科、第二外科が合同となり、大講座制となったこともひとつの魅力だと思います。私のような外科に決めた人は、医者になってからの一つの目標として、まずは外科専門医を取得するということがあります。大講座制となったことにより、外科を志している人には、専門医取得に必要な様々な症例を経験できることも旭川医科大学外科学講座の魅力だと考えます。いろいろな理由で入局先を悩んでいる方はおられると思いますが、結局最後に残るのは、働いていて楽しい環境だと思います。私も色々悩んで外科を選びましたが、今のところ後悔はありません。外科学講座には他にもいろいろな魅力がありますが、手技が楽しいと思える方は外科へ入局するのが一番だと思います。そうすれば、おそらく後悔はない医者生活が送れるのではないかと思います。

多田裕樹先生

4年目後期研修医(旭川医大34期卒)

外科の魅力は、やはり手術。大学病院・関連病院の豊富な指導医のもとで、手術手技の研鑽を積み、一つ一つ身につけていく喜びが外科の魅力です。しかしもう一つ、個人的に大きな魅力と考えているのが、患者さんとのつながりです。自分の健康や生命の不安を抱えた患者さんやその家族たちと、一緒に治療し、手術を乗り越え、そして回復へと歩いていく。そして医師だけでなく、病院スタッフ全体が力を合わせてそれを達成していく。それが医師ならではの、外科ならではの、もう一つの醍醐味だと思います。人間一人を診ることは難しいことで、自分自身その難しさや、日々学び続けることの重要性を感じています。外科大講座制に移行して指導体制や学びの場がさらに充実しており、人間一人を診るために必要な、知識や技術を身につけられる環境があります。またそれぞれの目標や生き方にあった研修を行う幅広さがあります。気軽に話し合える身近な上級医(先輩)や相談に乗ってくれる指導医(おじさん/おとうさん?)もいます。医師としての喜びや、終わりのなき学び、そして外科ならではの手厚く、かつフランクな環境が待っています。興味があれば是非、覗いてみてください。

## 外科入局説明会

平成27年6月25日(木)17:45～ 医局棟1階小講堂



- ❖ 旭川医科大学外科学講座は今年4月から1つになりました。
- ❖ 充実した外科研修プログラムで若手外科医を育成しています。
- ❖ 各分野の説明後、懇親会を街で予定しています。
- ❖ 外科に興味のある方は、何年生でも来て下さい！

### 【連絡先】

旭川医科大学外科学講座

長谷川 公治 E-mail: [2ge@asahikawa-med.ac.jp](mailto:2ge@asahikawa-med.ac.jp) TEL: 0166-68-2503  
内田 恒 [huchida@asahikawa-med.ac.jp](mailto:huchida@asahikawa-med.ac.jp) TEL: 0166-68-2494